

初年次の国際交流

米国夏期留学について—ポートランド州立大学



Judith先生を囲んで

昭和大学では、全学部一年生の希望者を対象に、米国オレゴン州ポートランド州立大学にて4週間のサマープログラムを実施しています。

ホームステイ2週間とポートランド州立大学キャンパス内学生寮2週間の滞りで、語学研修、医療施設見学、また休日にはアクティビティも用意しています。学生の滞り中は、ポートランド州立大学国際交流課ディレクター、Judith先生が生活指導してくれます。

本年4月、Judith先生が来日し、富士吉田教育部において講演され「米国の社会は自由がありますが義務もあるので、学生は生活に

自覚をもって取り組んでいます。ぜひ積極的に行動する、アクティブラーニングを実行してください。そしてサマープログラムに参加して、今まで映画でしか見たことがなかったような大自然の中で楽しいひとときを経験して下さい。」とお話されました。

ドイツ夏期留学について—フライブルク大学

ドイツ国への夏期4週間コースの留学を、全学部の学生を対象に本年から募集を始めました。フライブルク市はフランス・スイスの国境近い500余年の伝統をもつ大学都市で、環境先進都市としても知られています。大学の個室寮に宿泊しドイツ語・ドイツ文化を学ぶクラスで、ドイツ語の初心者でも参加可能であることが特長です。週末にはドイツはもちろん、フランス・スイスへのエクスカージョンもあります。いま医療系学生のためのエクスカージョンも開拓中です。



フライブルク市の町並み



市の象徴ミュンスター寺院の尖塔

大学では学生の国際交流を推進するため、海外実習・研修補助制度を設けて積極的に支援しています。

白樺 百合

昭和大学だより
第2号 2008.7.18 発行

発行責任者 富士吉田教育部長 片桐 敬
編集責任者 富士吉田教育部教授 喜多村 得也
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田 4562
TEL 0555-22-4403



森川元之撮影

何故全寮制教育か

昭和大学学長 細山田 明義



全寮制共同生活による初年次教育は本学の特長で、既に40年の歳月が流れました。過去2回の卒業生によるアンケート調査から、「全寮制度が本学志望の動機になった」、あるいは「寮生活が楽しかった」と答えた人は25%以下に過ぎず、反対に40%の人は入学前、「寮生活に不安を感じていた」と言う結果でした。しかし、1年間の寮生活を体験した後では、75%以上の人から、「集団生活におけるマナーや、相手を思いやる気持ち」が習得でき、豊かな人間性を育む機会になったとの解答を得て、全寮制度の目的が十分に達せられたと考えており、さらに充実させたいと思っています。病める身になった人は自然の心に戻り、そのような人に手を差し伸べ、助けるのが医療です。医療の本質は助け合う心であり、それが実践できる人間を育てる教育ができることが大切です。過酷な受験戦争を送ってきた人々には、殺伐とした環境から離れ、緑豊かな自然一杯の所で、自然体で過ごせる生活を是非経験して欲しいと念願する次第です。

広報誌名称について

昭和40年に富士吉田校舎が開校してから10年間は、男子寮、女子寮の二寮の建物しかありませんでした。そして初めてのそれぞれの寮が「白樺寮」「百合寮」と名付けられたのです。それから三寮が加わり学ぶ学生の数も増えましたが、この名称の寮はずっと今日まで残っています。だから白樺・百合という名は、これまで学んだ一万六千余人の先輩たちが、親しく馴染んできた名称であります。現実には白樺の木は、時計塔の校舎の前に、現在でもすっきりと幹と枝を空にむかって数十本伸びており、他にはみられない富士吉田校舎独特の美しいたたずまいを成しています。この樹木は創設当時信州の付属病院院長が寄贈してくれたのを寮生たちが植樹したのです。創設以来40年もずっと先輩たちを富士山と共に見つめてきた頼もしい樹木です。百合は、時折吉田校舎付近の森のなかで、人知れず咲いているのみかける花ですが、大地の夢のように可憐で、その色も香りも心を慰めてくれます。なにか、医療人の理想の姿のような感じもする、気高い野の花です。昭和大学の校章になっている花です。そういうわけで、名称公募に応募してくださった提案を—そのなかには「富士のこだま」「昭和の輪」など魅力的な提案がありました—を十分ふまえ、編集委員会で論議の末、この名称に決定しました。創設時の初心を貫き、先輩たちに続いて現在・未来の寮生たちが、この植物のように日ごとに成長し、新しい空気を吸って前進するとともに、伝統を受けつぎ、過去を忘れないでほしいという願いがこの名には込められています。(K.)



昭和大学富士吉田校舎オープンキャンパス

昭和大学では初年次全寮制教育を既に40年以上にわたって行っています。この全寮制教育は、それぞれの専門職を目指す学部6学科の学生が生活、学業、余暇を共にして本学の理念である「至誠一貫」、すなわち「患者の立場に立った医療」、「まごころを尽くす医療人」の育成を目的として実施されています。初年次教育における全寮制はハーバード大学、ケンブリッジ大学、オックスフォード大学など国際社会をリードする大学において古くから導入されており、その重要性は国際的に既に認められています。本学においても1年次全寮制は6年間あるいは4年間の学部一貫教育の重要な期間として位置づけ、力を入れております。本学における全寮制教育の実際を入学前にご理解頂くために毎年オープンキャンパスを実施しており、

本年度も学生たちの入学後初めてのイベントである寮祭時に行いました。当日は163名のご参加を頂きました。オープンキャンパスでは、寮祭への参加を通しての在学体験、食堂での食事体験、本学の教育理念、1年次の教育、在寮学生の生の声などの講演、寮見学、実習施設の見学ならびに模擬実習、学生とのフリートークなどが行われました。当日に実施したアンケート結果では、本学志望の動機に“寮生活があるから”、“全寮制教育に強い興味を覚えた”、などの回答が多く、また、“パンフレットなどの情報ツールでは得られないありのままの学生生活を垣間見ることが出来た”などの回答が多く得られました。本学が目指している医療人全人教育のための全寮制教育に対する深いご理解が得られた1日でした。



化学模擬実習



物理学模擬実習



在校生とのフリートーク



講堂での説明会



生物学模擬実習

寮祭



(写真1)



(写真2)



(写真3)

今年の寮祭は6月6日(金)から7日(土)にかけて開催されました。6月とともに梅雨入りした今年は、雨の影響もあり、ゲート造りも思うように進みませんでしたが、当日には立派なものが出来上がりました(写真1)。グラウンドコンディション不良のため、体育祭はドッジボール大会となりました。しかし試合は大いに盛り上がり、体育館は学生の皆さんの熱気に包まれました(写真2)。観戦した我々も楽しい時間を過ごすことができました。

一方、ステージではこの日のために練習を重ねてきた演奏やパフォーマンスが披露されました(写真3)。“ミスター富士吉田寮”の選出や“吉田の主張”も行われました。地元の方々にたくさん来ていただき、バザーも盛況でした。寮祭実行委員会では例年この売り上げの中から富士吉田市に対して寄付を行っています。7日の夜には花火も打ち上げられ、寮祭の思い出を彩ってくれました。

大学生活にも寮生活にも馴染みつつあるこの時期に、すべての学部の学生と一緒に行動することで、連帯感が深まったのではないかと思います。

絆の深まり 歯学部 児玉 沙織さん (鹿児島県鹿屋高校出身)

今回、広報委員(寮祭パンフレットに載せる町の広告を集める役)は女子しかいませんでした。移動手段は自転車か徒歩か時折バスのみです。それだけの手段で市内のお店をまわって広告費用を頂くのです。しかも動ける時間は放課後の数時間だけと、土日のみです。でも奮起した花の乙女たちは少人数ながらも約70件もの広告を集めました。

苦しいことも多くありましたが、様々な意味で収穫を得た期間でした。「アーうちもカツカツでねえ、悪いけど…」と断られても、不景気風の吹く折、こちらは寄付をお願いする身、失礼のない交渉の仕方、言葉遣い、態度など改めて自省させられました。総合してみると、辛くもありまし

たが、それ以上に富士山麓地域の人々と触れあう貴重な経験をさせていただきました。委員の一員として働けたことに心から感謝しています。

そして貴重な結果がもうひとつ。ともに苦しみ、喜んだ広報委員たちの間の絆が深まったのです。現在打ち上げを企画中です。雰囲気の良い店、気さくな店主の店などの新しい情報も得られました。さて、みんなどこへ行きましょうか。



寮祭パンフレット



(写真4) 模擬店風景



(写真5) 昭和大の花、百合の看板